

教育目標(めざす児童生徒像)

豊かな人間性を培い 自ら学び たくましく生きる 清泉の子どもを育成する
よく考える子ども 助け合う子ども やりぬく子ども

今年度の指導の重点

基礎学力の充実を図り、自主的に取り組む学習態度を育てる。
縦割り活動とおして人間関係の改善・深化を図り、豊かな心・健やかな体を育成する。
指導力向上と授業改善に努め、教育力のある学校をつくる。
学校を地域に開き、信頼される学校を目指す。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国(小・中学校)

国語A・算数Aについては、県平均と正答率が同程度であるが、国語B・算数Bについては、県平均と比べると正答率が低い。
国語Aの領域等では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」において県平均よりかなり高いが、「書くこと」に課題がある。
国語Bにおいては、「読むこと」「書くこと」に課題がある。
算数Aの領域等では、「図形」「数量関係」において県平均より高いが、「量と測定」に課題がある。
算数Bにおいては、「数と計算」は県平均を上回るが、「量と測定」「数量関係」に課題がある。
問題形式では、4つの調査とも記述式の正答率が低く、大きな課題である。

県(中学校)

ほとんどの教科・観点において正答率が昨年度を上回ったが、まだ、県の平均正答率に達しないものもある。
国語の活用(B)は、正答率が、県平均より高いが、その他の教科の活用(B)は、県平均を下回り、活用に課題がある。

【学習状況調査の結果】

読書をよくし、読書好きの児童が多い。
家庭学習をする割合が高いが、予習・復習を取り入れるまでには至っていない。
自然の中で活動したり、年齢の異なる人と行動している児童の割合が高く、また、地域の行事によく参加している。
自己肯定感や学習に対する意識が低い。
勉強が好きだったり、よくわかると意識できている児童が少ない。
外遊びもよくするが、ゲームの時間も多い。

成果と課題

他教科に比べ国語の出来が少しよいのは、数年取り組んだ国語の校内研究の成果である。
算数、数学ともに活用型の問題を苦手としている。
記述式やねばり強く問題を読んだり、考えたりすることが苦手な児童が多い。
塾通いが少ない反面、家庭学習をきちんとする割合が高い。
農業体験や老人クラブとの交流など、地域の多大な協力があり、体験活動や地域の行事に参加している割合が高い。また、「朝の運動」「クリーンタイム」など、縦割り活動を推進しているので、異学年と行動していると答えた児童の割合が高い。
各教科が好きと解答した割合が低く、学習に対して前向きな児童が少ない。

課題に対応した改善方法

毎日の授業の中で、できるだけ自分の考えを、ノート等を書く活動を取り入れる。
算数を中心に「互いのよさを認め合い、学び合う子どもの育成を」をテーマに、校内研究を推進する。
読み取る力やあきらめずにねばり強く取り組む姿勢を培うために、成就感や達成感を味わえる取り組みを工夫したり、県の到達度テストなど類似問題を積極的に取り入れる。
全学年で発達段階に応じて、ペア学習やグループ学習を進める。
学ぶ大切さや楽しさを今以上に培うために、わかる授業・楽しい授業を工夫する。
落ち着いて学習に取り組む環境を整える。

取組の検証方法及び検証時期

校内研究で定期的に取り組みの交流をする。
児童へのアンケートの実施

達成目標(数値目標)

国語A・算数Aの平均正答率が県平均を上回る。
「授業がよくわかる」「各教科が好き」と解答する児童の割合を20%上げる。
あいさつ・言葉づかい・掃除・歌声・集合などが目に見えてよくなる。